

【現代に人と人と

の交流を・・・】

「四苦(生・老・病・死)」:

私達は生まれた時点でこの代表的な四つの苦しみを抱いて、この世の中に生を受けてきます。佛教ではこの世の中の事を、苦しみの世界であると教えています。では「この世の中は苦しみしかないのか？」と問われれば、皆様自身も色々経験があると思います。が、「苦しみ」とピツタリ背中合わせに「幸せ・楽しいこと」がくっついていきます。何かが生まれれば、何かが消滅していきます。楽をしている人がいれば、苦しんでいる人がいる。頑張っている人がいれば、怠けている人がいる。世の中は全てにおいて表裏一体になっていきます。表があれば、必ず裏がある。これは1つの真理といえるでしょう。

いま会社はリストラバばかりです。確かにグローバルゼーション時代ですからアメリカ式の経営にならって、リストラで要らないものを落として、要るものだけにし、合理的に会社を回そうというのでも分らないでもないです。しかし先述した真理に習えば、要るものだけを残したら、またその中から要らないものが出てくるのは当然の流れなわけです。白ネズミの面白い実験結果があります。

白ネズミを数10匹飼っている、クルクルよく車を回す働きネズミと、何もせず餌だけを食べる怠けネズミが出てくるそうです。そこで働きものの白ネズミと、怠けものの白ネズミを別にして飼ってみると、働きもののグループの中でも、怠けもののグループの中でも、それぞれまた働きネズミと怠けネズミができるんだそうです。これは何を教えているのかと言えば、白ネズミに生れつき、

働きネズミと怠けネズミが存在するのではなく、状況によってどちらにでもなるという事なのです。そうですね。そうでしょうか？面白いですね。

人間だってそんなに違わないのではないのでしょうか？役に立たないといつてバサツと切ってしまうより、日本的経営のいいところも残す必要があると思います。人間の「和」という考え方で、その人を生かしていく。

佛教をお説きになったお釈迦様は次のように仰っています。

『ここにある石は、この石が将来何かになるからすばらしいのではない。石そのものが存在することがすばらしいのだ』と。

さらには、『この川の水が次に何になるから値打ちがあるのではなくて、川の水は水であるから貴重なんだ』と。

私達は政治・経済はじめ、現代社会の至る所で「数字」社会になってしまいました。その数字を出すためにヤキモキして、どんな手段も辞さ

ない覚悟で臨んでしまっています。しかしそれでいいのでしょうか？確かに口で言うほど容易いことではないでしょう。しかし数字や実績だけで、簡単に首を斬り落とす事に、私は全く感心しません。

また、数字を出すために、世の中がマニユアル化し過ぎてきました。

例えばですよ、このマニユアル化の代表的なものに、コンビニや外資系のファーストフードがそうです。「スマイル0円」という表示を目にした時には、開いた口がふさがらりませんでした。「0円」と表示している時点で、笑顔をも値踏みしているわけでしょう。昔の日本人は、これを「恥」と言ったのです。

昨年この様な話を聞いたことがあります。私の先輩のお寺で大きな行事(法要)があつて、手伝って頂いた総代さん達と法要終了後に、その外資系のファーストフード店のハンバーガーを食べながら座談会をしようと思っ

て、ハンバーガーを買いに出掛けた時のことです。レジのスタッフが

「いらつしやいませ、ご注文はお決まりですか？」と聞いてきました。手伝ってくれた方が約30人いたので、「それじゃあハンバーガーを30個」と答えたところ、

「こちらでお召し上がりになりますか？それともお持ち帰りになりますか？」だつて(泣)。いくらなんでもハンバーガー30個も食べれるわけがありません。

この様に、効率よく結果主義に走ってきた結果、確かに現代文明は発達の1途を辿つて、私達が生活しやすい環境をどんどん作つて現代に至っている訳なのですが、何か大切な、人と人との交流と言いますか、心と心が通い合うという、人間として最も根本的な精神がどこかに置き忘れてきたのではないのでしょうか？

良いものと悪いものは常に表裏一体です。無くして

はいけない、忘れてはいけ
ない事があります。

どうかその事を、私達は
自分の身の回りから確認
して、古き良き時代をもう
一度目覚めさせなければ
いけないような気がしま
す。

来月号ではもつと具体
的に、私達はどの様に考
え、生活していけばいいの
かを考察していこうと思
います。

副住職 谷川 寛敬